

## 横浜市下水道雨水浸透施設の整備に関する調査・研究

全体期間

1995. 5～1996. 7

本文 55P～ 58P

## (目 的)

横浜市では、都市化の進展に伴う雨水流出量の増大が著しく、下水道事業の中の雨水対策は大きな課題として挙げられている。

このような状況の中、横浜市では平成6年度より下水道雨水貯留浸透事業を実施し、「浸透ます等」の設置を進めている。

しかしながら、今後いっそうの事業の拡大を図るためには「浸透ます等」の設置による種々の影響の確認を行う必要がある。

本調査は、下水道雨水浸透施設の実状について調べるとともに、横浜市における浸透の諸課題を解決するための調査手法について、実験計画書としてとりまとめるものである。

## (結 果)

今までの浸透施設の調査結果を、以下のようにとりまとめた。

- ① 一般敷地内からの雨水だけでなく、道路排水についても必要に応じて設置を進めていく必要がある。
- ② 浸透ますや浸透トレンチ、泥だめます等を組み合わせて浸透量の向上、長期的な浸透能力の保持を図る必要がある。
- ③ 浸透効果は、雨水流水抑制だけでなく、地下水かん養、合流改善等種々の効果をもつので、将来的には設置目的についても幅広く認識していく必要がある。
- ④ 浸透能力の算定手法については複数の方法があり、今後、雨水流出抑制効果の評価方法等と合わせて、下水道計画に位置づけられるよう確立していく必要がある。
- ⑤ 浸透雨水の土壌や地下水に与える影響および道路に対する影響等については知見が少なく、浸透実験調査等を通して調査をしていく必要がある。

④、⑤については、横浜市内で技術的知見を集積し、今後の事業のあり方を判断することを目的に浸透実験調査を行うことを予定しており、本年度はその調査計画手法について検討し、横浜市浸透実験計画書を作成した。

共同研究者：横浜市

財団法人 下水道新技術推進機構

研究担当者：藤田 昌一、千葉 恭人、石川 泰裕、宮田 篤

キーワード

雨水浸透施設、浸透能評価、道路、地下水、浸透実験計画